



協力：埼玉県立北本高等学校



新井会長 坂田副会長 高木委員 鷹谷委員 長尾 蓮さん 岩井ありささん 大畑 仁さん 重山 美結奈さん 浅利 昂平さん

座談会 北本高等学校 明るい選挙推進協議会

【特集Ⅱ】

高校生と語ろう

「選挙」ってどーなの？

平成31年の統一地方選挙で投票デビューする予定の北本高校の生徒と、明るい選挙推進協議会の推進委員が、選挙について本音で語り合いました。



関北本市選挙管理委員会事務局(☎594-5510)

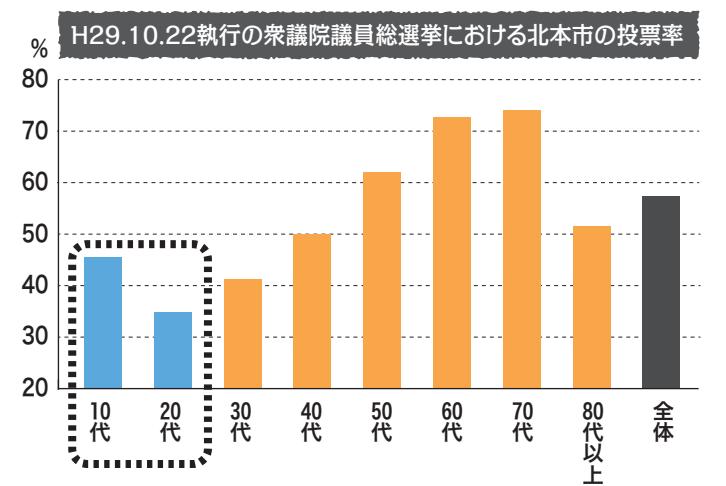
「選挙」って難しい？

会長 皆さんは「選挙」にどのようなイメージを持っていますか。
大畑 日本をより良くするためにやるものだと思います。
長尾 でも、学生をはじめ若者が参加しにくいイメージがあります。
浅利 僕も同じです。難しいイメージがあります。
会長 2年前に選挙権年齢が20歳以上から18歳以上に引き下げられました。若者の投票率は低い状態が続いています。また、選挙権を得てから初めての選挙で投票した人でも、次の選挙では投票しなかった人が少なくありません。皆さんは今後、選挙の時に投票でき

る立場になりますが、若者の投票率が低いのはなぜだと思いますか。
大畑 政治への関心が低いのだと思います。
岩井 若者にとっては、政策の話など理解が難しいことが多いのだと思います。
会長 なるほど。「政治」にも「選挙」にも、難しいイメージがあるようです。では、若者の投票率を上げるには、どうしたら良いと思いますか。
長尾 どの世代の人も投票したくなるような公約が、より一層増えれば良いと思います。
重山 候補者の公約などを、もっと若者に分かりやすい表現で発信してくれたら理解しやすいですね。

事実を知っておこう 若者の投票率低下の現状

平成29年に執行された衆議院議員総選挙における北本市全体の投票率は56.90%でしたが、若年層の投票率は依然として低く、20代では34.41%でした。10代は46.27%と若年層の中では高い方でしたが、18歳に対して19歳の投票率は低くなりました。また、平成28年に執行された参議院議員通常選挙と比較すると、有権者となってから初めての選挙で投票した人でも、次の選挙では投票しなかった人が少なくないことが分かりました。継続的に投票を行う有権者を増やすことが重要な課題です。



会長 候補者も若年層を意識した動きを求められますね。
岩井 政治や選挙について、小学生の頃から学ぶ機会を作るとか。
会長 それはまた違った切り口ですが、重要なことですね。
大畑 自分の投票が社会に影響するということ意識を高めることも必要だと思えます。
会長 では、もし、このまま若者が投票しないと、どのような社会になると思えますか。
大畑 若者にとって不利な社会になると思えます。
長尾 最終的に、若者自身の首が締まると思います。
候補者を知ろう
高木 選挙は、難しいイメージという意見でしたが、では投票するにあたって候補者の情報を収集する方法を紹介しましょう。難しいと思っていた政策も、わりと自分たちにとって身近な話だったりという発見があるかもしれません。まず、候補者の「顔と名前」は、街角に設置された選挙ポスター掲示板で確認できます。皆さんも見かけたことがありますよね。
岩井 はい。選挙の時に、街中でよく見かけます。

高木 あれも情報収集の一つですが、顔と名前だけで投票するのはねえ、一同(笑)
高木 候補者や政党などの「政策」を知るには、選挙管理委員会が発行する選挙公報を見るのが分かりやすいです。また、演説会や候補者のホームページなどで情報を収集するのも良いと思います。
岩井 いろいろあるんですね。
高木 そこで得た情報が身近に感じられると投票へも自然と行きたくなるかもしれません。
自分の意思が一票に
浅利 選挙当日に投票に行けない場合、どうしたらいいですか。
鷹谷 用事があったら投票に行けなくても、期日前投票制度を利用すれば、投票日の前であっても投票を行えます。居住地の投票所に行けない場合は、不在者投票により投票することもできます。
重山 実際に投票するときに気をつけることはありますか。
副会長 投票は、難しいイメージをもつ必要はありません。とても簡単です。ただ気をつけてほしいのは、自分の意思が一票として確実に反映されるよう、氏名掲示とおり正しく投票用紙に記載する

こんにちは! 北本市明るい選挙推進協議会です

北本市明るい選挙推進協議会は、30人の会員が加入しており、市内において、明るい選挙推進運動を行っています。

明るい選挙推進運動とは、有権者が主権者としての自覚を持って進んで投票に参加し、選挙が公明かつ適正に行われ、私たちの意思が正しく政治に反映される

選挙を、民間と行政が一体となって推進する運動のことをいいます。

北本市明るい選挙推進協議会では、北本まつり等をはじめとして日ごろから明るい選挙の推進を呼びかけるほか、選挙執行前には、市内大型店舗等で有権者に投票を呼びかける活動を展開しています。



平成29年の北本まつり「宵まつり」での啓発活動

今回は、北本高等学校の生徒の皆さんと座談会を行い、選挙や投票に対する新鮮な意見をいただきました。

選挙権年齢が18歳以上に引き下げられるという大きな制度改正があるから、早くも2年が経ちますが、若い世代の投票率の低さが依然として指摘されています。

選挙は、市民が政治に参加する貴重な機会であり、私たちの未来の行く先を決めるものです。平和で豊かな現代社会があることを当たり前だと感じてしまうかも知れませんが、18歳以上の全ての人が投票により等しく政治に参加できるということは、とても意義深く素晴らしいことなのです。

来年の春には、統一地方選挙(埼玉県議会議員一般選挙、北本市議会議員一般選挙、北本市長選挙)が執行される予定です。まずは、選挙に参加しよう、投票に行こうと自ら決心することが大切です。そして、実際に調べたり考えたりすることで、社会の仕組みや動きが見えるようになります。大切な権利を無駄にしないよう、責任感を持って投票してほしいと思っています。

会長から メッセージ



北本市明るい選挙推進協議会
会長 新井 保好さん

ことです。せっかくの投票が無効票となってしまうたらもったいない。これ、北本市でも結構多いんです。重山 自分の大切な一票が無駄にならないよう、気をつけたいですね。

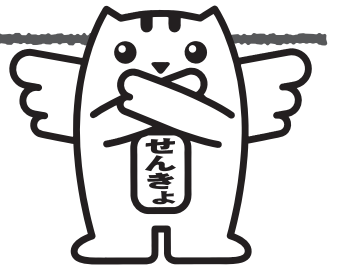
若者が進んで投票するには

副会長 若者に興味を持ってもらうために何かアイデアはありますか。浅利 学校で学ぶ機会をもっと増やしていくと良いと思います。大畑 選挙や政治を分かりやすくイメージできるような情報発信が大切だと思います。重山 若者と情報を共有できるイベントなどの場を設けると良いと思います。こういふ座談会とか。副会長 素晴らしいアイデアをありがとうございます。会長 最後に、座談会を通して「選挙」のイメージが変わりましたか。浅利 難しいイメージが少なくなりました。長尾 選挙権を持ったらず投票に行こうと思います。会長 ぜひ皆さん、進んで投票に行ってください。本日は、とても有意義な時間となりました。ありがとうございました。

一票がもったいない! 無効票となってしまう例

北本市では、どんな選挙の時でも、おおよそ2%くらいの投票が「無効票」となっています。

投票する際は、投票用紙に、候補者の氏名や政党名等を自署しなければなりません。しかし、投票用紙に正しく記載しなければ、せっかくの投票が「無効票」となり、無駄になってしまう可能性があります。



<p>北本太郎</p> <p>所定の用紙を 用いないもの</p> <p>なるほど。投票所で渡される用紙に書くんですね。</p>	<p>北本太郎 石戸桜子</p> <p>2人以上の 候補者名を 記載したもの</p> <p>応援している人が複数いても、1人しか書いてちゃダメ!</p>	<p>北本太郎</p> <p>候補者名のほかに他事を記載したもの</p> <p>余計なことを書いたら無効になっちゃうんですね。</p>
<p>北本</p> <p>候補者名を 自署していないもの (判子の押印など)</p> <p>自分の字でしっかりと丁寧に書くことが大切なんです!</p>	<p>どの候補者に 投票したのか 確認が難しいもの</p>	<p>(白紙)</p> <p>何も記載していないもの (白紙投票)</p> <p>そりゃそうですよね。何も書いていなければ無効ですよ。</p>